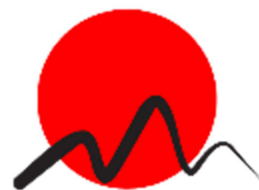


Slovenia Monthly August 2019

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年9月9日



～8月の主なポイント～

- 外政：** 河野外務大臣が日本の外務大臣として初めてスロベニアを訪問
シャレツ首相のセルビア訪問
- 経済：** スロベニアの輸出入, 引き続き好調
- 治安：** 政府, 国境に新たなフェンス設置を開始
- 社会：** スロベニア人選手, クライミング世界選手権で3種目を制覇

河野外務大臣のスロベニア訪問

8月13日から14日にかけて、河野太郎外務大臣は、日本の外務大臣として初めてスロベニアを訪問し、ツェラル副首相兼外務大臣と外相会談及び昼食を交えた意見交換を行ったほか、パホル大統領を表敬しました。また、日本企業支援の一環として、ツェラル副首相兼外務大臣とともにコチェウイエに所在する安川電機ロボット製造工場を視察しました。

また、今回の訪問には、河野香外務大臣夫人も同行し、大臣と一緒に安川電機ロボット工場を視察したほか、身体に障がいを持つ患者を対象としたリハビリサービスを行うソチャ・リハビリテーション機関や障がい者支援団体が運営するショップ等を視察しました。

14日に実施された外相会談において、両外相は、経済関係拡大やスポーツ分野での交流をはじめとする日・スロベニア関係のほか、西バルカン情勢、欧州情勢、北朝鮮を含む国際社会の直面する課題の対応等に関する協力等について、率直な意見交換を行いました。

日本の外務大臣として初めてのスロベニア訪問となった今回の河野大臣の訪問を契機に、両国の友好関係がより一層発展することが期待されます。



日・スロベニア外相会談



パホル大統領表敬



安川電機ロボット製造工場視察

河野外務大臣書面インタビュー全文(8月14日デロ紙掲載)

題名:「結束した欧州, 日本にとって重要」

副題:「日本外交のトップ, 河野太郎外務大臣のスロベニア訪問」

『私たちは, 変化と不確実性の時代に生きている』, なお一層重要なスロベニア指導部との会談」

【問】外交関係樹立以来27年間, 日本のハイレベルのスロベニア訪問が必ずしも多くない中, 河野大臣のスロベニア訪問は極めて重視されている。河野大臣の今次訪問への期待如何。今次訪問は二国間関係にどの程度貢献すると考えるか。

【河野外務大臣】

日本の外務大臣として初めてスロベニアを訪問できることを嬉しく思います。今年の2月にミュンヘン安全保障会議に参加した際に, ツェラル外相からお招きいただき, 是非とも訪問を実現したいと考えていました。

二国間関係は, 特に経済分野において活発です。スロベニアはIT・先端技術分野に強みを

有し, コペル港を通じて欧州における物流に地理的優位性を持っています。例えば, 有力な産業機械・産業ロボットメーカーである安川電機はこのスロベニアの強みを認識したからこそ, ヨーロッパ唯一のロボット製造拠点をコチェウイェに置き, 今秋には第2製造拠点を増設予定と伺っています。私も今回ツェラル外相とともに同製造拠点を視察予定です。二国間の経済関係の成果をこの目で見つつ, 外相会談では更なる経済関係の拡大に向けてどのような協力が可能か議論したいと思います。

【問】日本とスロベニアの間には共通点があり, 高い国債依存度もその1つであるが, 今次訪問において両国共通の国内課題を議論するのか。議論する場合, それは何か。

【河野外務大臣】

日本とスロベニアは少子高齢化, 経済成長の維持と財政赤字への対応など先進社会共通の国内課題を抱えています。国内課題の克服に向けた協力も始まっています。今次外相会談で取り上げる“Society5.0”はまさにその一例です。日本は, IoTやAIの積極的活用により, 少子高齢化等の社会課題を克服し, 経済発展を実現する社会を将来目指すべき姿として掲げ, これを“Society5.0”と名付けています。日本はスロベニア政府を始め, リュブリャナ大学やBTC cityといったスロベニアにおける様々なステークホルダーがこの“Society5.0”に共鳴する動きを見せていることを高く評価しており, その普及に向けてどのような支援が可能かツェラル大臣との会談で意見交換を行う予定です。

また, 来年日本は, 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を主催しますが, スロベニア選手団が活躍し, 多くの観光客が日本を訪れ, スポーツを通じて市民間の交流が一層活発になることを期待しています。



(次ページへ続く)

河野外務大臣書面インタビュー全文(続き)

【問】拡大する米中貿易摩擦及び世界的な保護主義の流れを受け、日EU関係の未来についてどう考えるか。

【河野外務大臣】

私たちは、変化と不確実性の時代に生きています。世界各地で、保護主義が強まり、法の支配に基づく国際秩序は様々な形で深刻な挑戦を受けています。

このような状況の中で、自由、民主主義、基本的人権、法の支配、国際法の尊重、市場経済等、価値観を共有する日本とEUが国際社会において連携していくことが重要です。日本とEUの間では、本年2月1日に戦略的パートナーシップ協定(SPA)の適用が開始され、経済連携協定(EPA)が発効しました。これらの協定を通じ、日本とEUの間の貿易、投資及び政治協力を一層活発化させ、戦略的パートナーとしての関係を深化させていきたいと考えています。

【問】スロベニアとの外相会談において取り上げる国際関係上の主要課題は何か。

【河野外務大臣】

EU、そしてスロベニアとの間における国際場裏での協力につき、日本が重視する課題の一つに北朝鮮への対応があります。北朝鮮問題については、国連安保理決議に従って、全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全かつ検証可能で不可逆的な廃棄に向けて、国際社会が一体となって米朝プロセスを後押ししていくこと及び国連安保理決議を完全に履行していくことが重要です。

さらに、南シナ海、アドリア海等、海域を問わず、海洋における法の支配、航行の自由や紛争の平和的解決といった原則を維持・強化することで、海洋を自由で開かれたものとすることも重要な課題です。ツェラル大臣との間で、こうした点についても意見交換を行い、連携していくことを改めて確認したいと考えております。

【問】ユーラシア統合の文脈における中欧に関する考え如何。日本は中国の「一帯一路」に対抗しうるイニシアティブを有しているのか。

【河野外務大臣】

国際社会における諸課題においてEUと協力していくにあたり、日本はEU内の結束を重視しています。この観点で、EUの中において、「強く結束した欧州」を支持し、推進するスロベニアとの関係は、日本にとってますます重要なものになっています。スロベニアは「強く結束した欧州」のため、西バルカン地域のEU加盟を積極的に支援していると承知していますが、日本も同地域の欧州への統合を支持しており、スロベニアとの間で連携して同地域の社会・経済改革や域内協力促進を後押ししていく考えです。

中国の「一帯一路」あるいはそれに関わる様々なインフラプロジェクトについては、アジアを含め世界の膨大なインフラ需要に効果的に応えていくことは重要な課題ですが、対象国の持続的な発展に貢献するためには、開放性、透明性、経済性、債務持続可能性といった国際スタンダードに合致しているものでなければならないと考えています。こうした日本の立場はこれまでも中国側に伝えてきています。

政治

【内政】

●年金者党、エリヤヴェツ党首が党首選再選に意欲【2日】

年金者党(DeSUS)のエリヤヴェツ党首は、来年1月17日の党大会で行われる予定の党首選に関し、立候補する意向を明らかにした。2005年より同党の党首を務めるエリヤヴェツ党首は、党首選では年金者党のルーツに戻り、年金者、障がい者、年配層等のために闘うことを主張すると述べた。

●投資促進庁、長官代行が新長官に就任【7日】

政府は、スロベニア投資促進庁(SPIRIT)長官に、同庁長官代行を務めるアイダ・ツデーデルマン氏(Ajda Cuderman)を任命した。ツデーデルマン氏は、本年2月に政府がゴラズド・ミヘリッチ(Gorazd Mihelič)長官を解任した後に、SPIRIT長官代行として活動していたが、この度、正式に長官に任命された。長官としての任期は8月16日より開始され、期間は5年。ツデーデルマン氏は、エネルギー関連「Petrol」社、コンサル業「Mercuri International」社等で勤務経験がある。



ツデーデルマン投資促進庁長官
(Photo: Anže Malovrh/STA)

●政府、インフラ庁長官を解任【14日】

14日、政府は、トポルコ・インフラ庁長官(Damir Topolko)を解任した。この決定は、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画の広報用設計模型の入札を巡るスキャンダルを受けたもので、すでに本件については、本年2月にレーベン環境・空間計画大臣が混乱の責任をとって辞任しているが、その際にブラトウシェク・インフラ大臣は、本件の責任者のひとりであるトポルコ・インフラ庁長官を解任する旨述べていた。政府は、トポルコ長官の解任を受け、経済学者で、2007年より財務省に勤務するモニカ・ピントル＝メサリッチ氏(Monika Pintar Mesarič)を長官代行に任命した。

●シャレツ首相、クルシュコ原発を視察【22日】

22日、シャレツ首相は、スロベニアの唯一の原子力発電所であるクルシュコ原発(NEK)を視察し、同原発が成功裡に稼働していると評価した上で、「将来的には、電力需要が高まることが想定されるので、2号機建設に向けて全力を尽くさなければならない」と呼びかけた。クルシュコ原発は、2043年まで使用年数が延長されているが、同時期までには、ショシュタニ火力発電所も操業停止予定。同視察において、シャレツ首相は、ロジュマンNEK社長及びノウシャクGen Energija社長とともに、国家気候エネルギー計画についても協議し、長期的なエネルギー計画の重要性につき強調した。なお、シャレツ首相のクルシュコ原発2号機建設に向けた発言については、隣国オーストリアで反発が出ており、同国シュタイアーマルク州のシックホッフナー副知事は、「クルシュコ原発は早期に閉鎖されるべきであり、拡張されることがあってはならない。シャレツ首相の発言は受け入れられない」と述べた。

【外政】

●ツェラル外相、クロアチア外相と非公式会談を実施【13日】

ツェラル外相は、休暇先のクロアチアにおいて本年7月に就任したクロアチアのグルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相と非公式会談を行った。この会談において、両大臣は8月末にヘルシンキで行われるEU外相会合の際に、初めての公式会談を行うことで一致した。クロアチアのHINA通信によれば、グルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相は、クロアチアとスロベニアの両国は過去数百年にわたり隣人であり、衝突したことはないとして、現在両国が直面する課題について対話を通じた解決を望むと述べた。

●ジダン国民議会議長のオーストリア訪問【19日】

18日、ザルツブルク音楽祭に出席したジダン国民議会議長は、ソボトカ・オーストリア国民議会第一議長と会談を行った。両議長は、両国の歴史に関する理解促進のための専門委員会の設置を提案することで合意した。同委員会の設置の理由として、ソボトカ議長は、隣国同士の分断または団結に繋がった事象について対話を行うことは重要であるとコメントした。また両議長は、西バルカン諸国のEU加盟努力、欧州議会選挙後のEUの動向、気候変動等についても意見交換を行った。

19日、両議長は再度会談を行い、両国の歴史に関する理解促進のための取組として、両国の科学芸術アカデミーに対して専門委員会の設置及び共通の歴史認識を綴った本の監修につき打診することで合意した。ソボトカ議長は、こうした取組は、すでにチェコとの間で実施されており、双方の理解促進に貢献した

とコメントした。ジダン議長もこの提案に同意しつつ、この取組が今日の政治状況に影響を与えないよう留意する必要があると述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

● シャレツ首相のセルビア訪問【27日】

シャレツ首相はセルビアを訪問し、ブルナビッチ・セルビア首相と会談を行った。シャレツ首相は、両国は重要な経済的パートナーであり、2018年の両国の貿易額は前年比14%増加しており、一層の拡大を期待すると述べた。ブルナビッチ首相は、スロベニアはセルビアにおける最大の投資国のひとつであり、約1600のスロベニア企業がセルビアで活動していると述べ、スロベニア企業の更なる投資を期待すると述べたほか、スロベニアによるEU拡大支持の姿勢に謝意を表明した。また、両者はセルビア・コソボ関係についても意見交換を行い、ブルナビッチ首相は、スロベニアが、コソボがセルビア物品に課している100%の関税措置は地域の安定に貢献しないとの立場を示していることに対して謝意を表明した。そのほか、両者は旧ユーゴスラビアの資産承継問題、スロベニアにおけるセルビア人労働者に関する両国間の合意についても意見交換を行った。また、シャレツ首相は、滞在中、ブチッチ大統領、ゴイコビッチ議会議長とも会談を行った。



(Photo: スロベニア政府, Nebojša Tejić/STA)

藤田医科大学とスロベニア団体との覚書署名式

8月13日、吉田大使は、藤田医科大学、リュブリャナ大学、ソチャ・リハビリテーション機関（以下、「リハビリ機関」）及びトヨタ自動車による、リハビリ医療分野における協力に関する覚書の署名式典に出席し、スピーチを行いました。

【覚書概要】

●3者間の覚書:

署名者: 藤田医科大学, トヨタ自動車, リハビリ機関
内容: リハビリロボットに関する情報交換, 共同開発等に関する協力

●2者間の覚書:

署名者: 藤田医科大学, リュブリャナ大学
内容: リハビリ医療分野における共同研究, 留学生交流等に関する協力



吉田大使は、スピーチにおいて、「リハビリ治療・技術分野での協力に関し、日スロベニア間の関係促進の節目に立ち会えることは光栄である。両国間では多くの分野において学術協力等を推進してきたが、医療分野、特にリハビリ医療分野における協力は今回が初めてである。藤田医科大学が、この分野のスロベニアにおける一流大学と覚書を締結できたことは喜ばしく、覚書2件の署名が、Society 5.0の実現にも貢献し、また、両国間の若者の交流に繋がることを期待する」と述べました。

才藤・藤田医科大学学長は、「リュブリャナ大学が、リハビリ治療の分野において先進的な研究を進めていることを、若い時分から知っていたこともあり、本日、その一流大学と協力関係強化に向けて合意できたことは非常に喜ばしい。今後、同大学、トヨタ自動車及びリハビリ機関とともに、患者のニーズを的確に把握し、リハビリ分野における専門性を更に高めていきたい」と述べました。



菅・トヨタ自動車BR-メディケアロボット室長は、「トヨタは、『Mobility for All』の実現に向けて取り組んでおり、本日の協力関係に関する合意は喜ばしい。当地におけるトヨタ・アドリア社のCSR活動も活発であり、今後の協同事業に期待したい」と述べました。

また、ツゲル・リハビリ機関代表は、「本日の覚書署名により、リハビリロボット技術開発のための共通の道を見いだすことが可能となった。この技術を製品化することにより、リハビリ患者に新しい価値を提供できることを期待する」と述べました。

経済

【経済一般、指標・統計】

●スロベニアのユーロ通貨支持率、EU加盟国内で最高の数値【6日】

欧州委員会が本年6月に約27,500人を対象に実施した欧州通貨ユーロに関する世論調査結果が発表され、スロベニアのユーロ支持率は88%で、EU全加盟国中、最もユーロ支持率が高い国であることが明らかになった。スロベニアの次に支持率が高かったのはエストニア及びポルトガルで85%、それに84%のフィンランド及びアイルランドが続いている。なお、EU全体でのユーロ支持率は62%で2007年以降最高値、不支持率は30%で2004年以降最低値を記録した。また、ユーロ圏に対象を絞るとユーロ支持率は76%、不支持率は18%との結果となった。ユーロは1999年に導入され、スロベニアはEU加盟の2年半後の2007年に同通貨を導入している。

●スロベニアの輸出入、引き続き好調【9日】

スロベニア統計局の発表によると、2019年前期（1月～6月）におけるスロベニアの輸出額は168億300万ユーロで前年同期比9.2%増、輸入額は167億8000万ユーロで11.2%増となり、貿易黒字は4790万ユーロとなったことが明らかになった。なお、

その内、EU向け輸出は127億3000万ユーロ、EUからの輸入は124億7000万ユーロとなっている。



(Photo: www.sloveniatimes.com)

【企業・産業の動向】

● 名古屋代表団、コペル港を視察【2日】

2日、名古屋商工会議所、名古屋港関係者等で構成される総勢30名以上の代表団がコペル港を視察した。コペル港湾会社代表は、代表団に対し、アドリア海及びコペル港の優位性に関する説明を行った。ザデル・コペル港湾会社社長は、コペル港は昨年よりオーシャン・ネットワーク・エクスプレス(ONE)と協力を行っており、日本との間に直通便を開通すべく努力していると述べた。

● 小売大手メルカトル、計13のショッピングセンターの売却手続を開始【9日】

小売大手メルカトルは、負債軽減のため不動産資産の売却を進めている。売却の対象となっているのは、国内コペルの1物件及び国外ではクロアチアの4物件、ボスニア・ヘルツェゴビナの6物件、セルビアの2物件の計13物件。これら物件はリースバックを条件に売却手続中であり、売却後もメルカトルは同じ物件でテナントとして活動する。メルカトルは本年3月時点で約6億6700万ユーロの負債を抱えており、昨年すでに10のショッピングセンターをオーストリア資本「Supernova」に売却している。

● ゴレニェ社、100名を新規雇用【16日】

大手家電メーカー「Gorenje」社は、組織再編の一環として本年7月に従業員60名との契約を解除したが、同社は、スロベニア通信の取材に対し、需要の増加に伴い、新たに100名を新規雇用する予定であると述べた。新規雇用される100名は本年9月に業務を開始する予定で、ヴェレニェ市の製造工場、主に洗濯機、ドライヤーの製造に従事する予定。また、同社は今後、テレビ製造工場を建設予定で、同工場では1000名が雇用される見込みとなっている。

● 新リュブリャナ銀行民営化、生命保険事業売却の可能性【19日、20日】

日刊紙フィナンツェは、新リュブリャナ銀行(NLB)がベルギーのKBC銀行グループの「KBC Insurance」社と共同保有する保険事業「NLB Vita」の株式を売却することを欧州委員会が求めていると報じた。「NLB Vita」の売却は、スロベニア政府が保有するNLB株の内、75%マイナス1株の民営化が2018年末までに完了する予定だったが、同期限内に民営化が完了しなかったため、民営化期限延長のために新たにコミットされたものである由。20日、同報道に対し、NLB及び「KBC Insurance」の両社は共同プレスリリースを発表し、「NLB Vita」の株式を売却する可能性につき検討していることを認めた。なお、NLB本体の民営化については、政府は本年6月に75%マイナス1株の売却を完了している。

● アドリア航空、機体メンテナンス企業を変更【20日】

アドリア航空は、同社保有の旅客機の機体整備会社を変更することを発表した。今後は、スウェーデン企業の「TAM」社がサーブ2000、イタリア企業「Atitech」社がエアバスのベースメンテナンスを担当し、また、ラインメンテナンスについては、デンマーク企業の「Northern Aerotech」社が担当する。本件については、アドリア航空は、本年6月に「Adria Tehnika」社とのメンテナンス契約を更新しないことを決定し、新たなメンテナンス企業を模索していた。

● 農業食品見本市「AGRA」開幕【24日】

スロベニア北東部ゴルニャ・ラドゴナにおいて、毎年恒例の農業食品見本市「AGRA」が開幕した。今年57回目を迎える同見本市では、「農業のデジタル化、ローカルフード、農業と若者」をテーマとして、32か国から1,850団体が展示。開会式において、シャレツ首相は、「農業の開発は国民の食糧の安全保障にとって不可欠。現在農家が直面する諸課題の克服を目指して、政府は農業分野における支援を継続する」旨挨拶を行った。また、同式典に出席したピヴェツ農林食糧大臣は、スロベニアの国土の4分の3は農村及び森林地域であるとして、こうした地域の開発の重要性を強調した。なお、前日の23日には、EU加盟15か国の代表らによる会合が開催され、参加国は農業の近代化及び技術革新における協力に関する共同声明を発表した。

【コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業】

● コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、橋梁の入札無効に【7日、19日】

7日、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業を管理運営する国営2TDK社は、同路線上のグリーンシュチツァ溪谷に架かる170mの橋梁建設工事に

関する入札結果を無効にすると発表した。2TDK社のゾルコ社長は、「入札で落札した企業がインフラ建設実績に関して虚偽の記載を行っていたことが判明したため、落札企業が最適な選択肢でないとの結論に至った」と述べた。同入札に際しては、「Markomark Nival」社を中心としたコンソーシアムが最も廉価な800万ユーロの価格を提示し、1350万ユーロを提示した「Kolektor CGP」社、1430万ユーロを提示した「Godina」社を退けて落札していた。

19日、「Markomark Nival」社のシャラ社長は週刊誌のインタビューに応じ、実績に関する虚偽の記載を行ったことを否定した上で、入札結果無効の決定に対する不服申し立てを行う予定である旨述べた。

軍事・治安情勢・危険情報

●リムスケトプリツェ駅で列車脱線が相次ぐ【6日、14日】

6日朝、国内東部のリムスケトプリツェ駅において、旅客列車2両が脱線した。脱線当時、列車には約200名の乗客が乗っていたが、怪我人はいなかった。この脱線事故の影響で、ジダニ・モストーマリボル間鉄道路線が一時閉鎖される事態となった。

14日夕刻、貨物列車がリムスケトプリツェ駅において脱線し、ジダニ・モストーマリボル間鉄道路線が一時閉鎖された。脱線が起きたのは、6日に旅客列車が脱線したのとほぼ同じ箇所であった。スロベニア国鉄の発表によると、鉄道インフラは良好な状態であり、脱線事故が相次いでいる原因については現在調査中である。

●政府、国境に新たなフェンス設置を開始【21日】

POP TVは、政府は国内南東部チュルノメリ市のクロアチア国境付近に4kmのフェンス設置を開始したと報じた。本件については、本年7月に新たなフェンスの設置及び老朽化したフェンスの更新を目的として実施された入札で、セルビア企業「Legi-SGS」社が落札していたが、フェンス設置場所については機密とされていた。今回フェンスの設置が開始されたのは、計画されている合計40kmのフェンスの内の一部とされており、全てのフェンス設置が完了すると合計約670kmに及ぶクロアチアとの国境の200km以上にフェンスが設置されることになる。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア人女性フリーダイバー、世界新記録で世界大会優勝【8日】

8日、ホンジュラスで開催されたフリーダイビングの世界大会において、スロベニア人女性フリーダイバーのアレンカ・アルトニク選手(Alenka Artnik)が、コンスタントウェイトウイズフィン(CWT。水中に垂直に設置したロープに沿って潜れる深さを競う種目)女子の部で、113メートルの世界新記録で優勝した。なお、イタリアのアレッシア・ゼッキーニ選手も同じく世界新記録の113メートルを記録したため、両者優勝となった。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●スロベニアと米国の研究者チーム、新たなタンパク質を発見【14日】

ダーウィンズ・パーク・スパイダーという種類のクモが生成する糸を調査しているスロベニアと米国の研究者チームが、新たなタンパク質を発見した。ダーウィンズ・パーク・スパイダーの糸は、生物が生成する物質の中で最も頑丈とされており、同研究者チームは他のクモの糸との違いについて調査を行っていた。通常は「MaSp1」及び「MaSp2」という2つのタンパク質で構成されているが、ダーウィンズ・パーク・スパイダーの糸からは未知のタンパク質が発見され、「MaSp4」と名付けられた。研究チームは、ダーウィンズ・パーク・スパイダーの糸の強靱さには、新たに発見された「MaSp4」が関係していると仮定している。同研究に参加しているヨヴァン・ハジ生物学研究所のマティヤジュ・グレゴリッチ氏は、研究が成功裡に進めば、衣類、靴、タイヤ、ロープ、パラシュート等、弾力性及び耐久性が必要とされる様々な素材で活用できる可能性があるとして述べた。なお、発見についての論文は雑誌ネイチャーの「Communications Biology」に掲載されている。

●スロベニア人選手、クライミング世界選手権で3種目制覇【20日】

20日、東京八王子にて開催されたIFSCクライミング世界選手権において、スロベニアのヤニャ・ガルンブレット選手(Janja Garnbret)が女子複合で優勝した。同選手は、大会期間中、リード部門、ボルダリング部

門でも優勝しており、ひとつの世界選手権で3種目制覇し、ハットトリックを達成した初の選手となった。なお、同選手は、スピード部門では唯一優勝できず、23位であった。快挙を達成したガンブレット選手は、「ひとつの世界選手権で3つの金メダルを獲得できたことは素晴らしいこと。スピード部門では良いスタートが切れなかったが、大会を通じて非常に楽しむことができた」と述べた。



(Photo: Stanko Gruden/STA)

●カヌー・スプリント世界選手権、スロベニア女子ペアが東京五輪出場権を獲得【24日】

ハンガリーのセゲドで開催されたカヌー・スプリントの世界選手権において、女子500mでシュペラ・ポノマレンコ・ヤニッチ選手(Špela Ponomarenko Janić)とアーニャ・オステルマン選手(Anja Osterman)のペアが銅メダルを獲得し、来年の東京オリンピックへの出場権を手にした。なお、同ペアは前日に行われた女子200mでも銀メダルを獲得している。

スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！

今回はラドウリツァ（Radovljica）について紹介します。この紀行を読んでくださっている方はこの町の名前を覚えて下さった方もいるかもしれませんが、そう、以前渡航した際に訪問したのですが、月曜は美術館始め施設が軒並み休みでせっかく足を運んだにも関わらず、残念な思いをしたのです（バックナンバー：2019年5月号参照）。首都リュブリャナもそうですが月曜は美術館や博物館は基本的に休みですので観光の際はご注意ください。



ラドウリツァへはリュブリャナのバスターミナルから1本で行けます。30分おきにバスが出ており、ちょうど1時間で到着します。有名なブレッド湖の少し手前があるのでバスが混雑していました。バスを利用する際は時間に余裕を持ってターミナルに行くことと安心です。ラドウリツァからの帰りも、降りた場所と同じ地点で待っていればほぼ30分おきにバスが来ます。支払いは運転手に行き先を伝えその場で支払うだけです。バスターミナルから旧市街へは歩いて10分弱。少し道がわかりにくいので前もって調べておくことと安心です。

この目玉は2つ。1つはジンジャーブレッド博物館。様々なジンジャーブレッドがあり、お土産販売はもちろん、時間に余裕があれば自分で作ることも出来ます。時間がない場合は名前入りのサービスもしてくれるのでお土産としておすすめです。また、ここはレストランも併設しているので郷土料理を楽しみたい方にもオススメ。



ジンジャーブレッドミュージアムの工房



名入れをしていただきました

もう1つは養蜂博物館。ラドウリツァは養蜂の町としても有名で養蜂に関する様々な展示があります。昔ながらの養蜂箱の戸板や巣箱、作業着など。特に戸板は装飾のきめ細やかなモノも多く、まさに芸術品です。戸板にはそれぞれ物語やシンボルが描かれており、それらを眺めるだけでも十分楽しめるはず。養蜂の町ですからお土産として蜂蜜も間違いのないものを買うことも出来ます。月曜さえ避ければ、小さな町ですが間違いなく楽しめる町ですのでぜひ足を運んでみて下さい。



養蜂博物館入口にて

それでは、また次号お楽しみに。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）
2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

在留届とは、海外での住所や電話番号、緊急時の連絡先、本籍地、パスポート情報などをお住まいの地域を管轄する日本国大使館／総領事館(在外公館)に届け出ていただくためのものです(海外に3ヵ月以上滞在される場合は、在留届を提出することが旅券法によって義務付けられています)。スロベニアでの住所等が決まりましたら、速やかに在留届を当館提出してください。また、スロベニア国内および第三国へ転居する場合や、日本に帰国する場合には、在留届の変更届、帰国・転出届を必ず提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●在外選挙人名簿への登録

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●日本映画週間 2019 開催決定

今年も映画の季節がやってきました！日本映画4本の上映を開催いたします。

日程: 10月21日～25日(23日水曜日を除く)

場所: キノ・ベジグラッド Kino Bežigrad(Linhartova cesta 11, 1000 Ljubljana)

上映予定作品: DESTINY 鎌倉ものがたり, ミックス., モリのいる場所, 勝手にふるえてろ

* 詳しい上映時間などはホームページ及びフェイスブックでお知らせいたします。

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>